

オンプレミスからクラウドへ： クラウド検討中オンプレミスユーザの疑問に答えます

技術戦略ユニット
ソリューション戦略室
松木 啓輔

自己紹介



名前	松木 啓輔
趣味	裁縫（初心者）、登山（中級者）、孤独飲み（上級者）
担当業務	IBM i のアプリケーション開発を中心としたプリセールスを担当しています。お客様の「できたらいいな」を実現するために、お客様や技術部門、パートナーと連携しながら日々取り組んでいます。
IBM i への思い	IBM i の素晴らしさ、その価値を改めて世の中に伝え、再評価していただけるよう積極的に情報を発信していきます！



名前	横田 佳奈
趣味	映画、登山、刺繍、絵画など・・・多趣味
担当業務	現在、IBM i の構築チームに所属し、日々基盤の構築業務に取り組んでいます。特に IBM i クラウドサービスの構築経験を重ねながら、さらなるスキル向上と高みを目指して挑戦を続けています。
IBM i への思い	これからも先輩方のノウハウを学びながら、この業界で IBM i の構築を担う若手 SE を増やしていきたいと考えています。

会社概要

NOSはおかげさまで44期

商号

日本オフィス・システム株式会社

本社

〒135-8568 東京都江東区有明3-4-10東京ファッションタウンビル西館 7F/9F

京橋事業所

〒104-0031 東京都中央区京橋2-13-10 京橋MIDビル6F

葛西SC

〒134-0086 東京都江戸川区臨海町3-6-4 ヒューリック葛西臨海ビル7F

設立

1982（昭和57）年 10 月 1 日

資本金

1億円

代表取締役社長

渡辺 毅（わたなべ つよし）

株主

兼松エレクトロニクス株式会社 100%

従業員

（2025年4月1日現在）

単体：259名 ※KELグループ連結 1,584名

事業概要

- 情報サービス事業
- システム販売事業

KELグループ



兼松エレクトロニクス株式会社（KEL）

ケー・イー・エルテクニカルサービス株式会社（KTS）

株式会社KEL CRESTIA

ルートリフ株式会社

企業理念

1. お客様第一主義 私たちは、常にお客様の満足度を意識し、信頼ある行動をします。
2. 新しい価値の創造 お客様に真に評価されるシステム・サービスを幅広く提供します。
3. CSRの追求 法令を遵守し、公正で透明性の高い企業活動を行います。



京橋事務所 外観



京橋事務所 内観

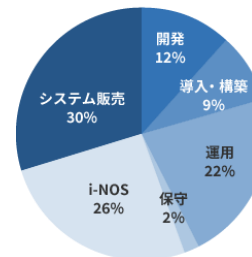


本社

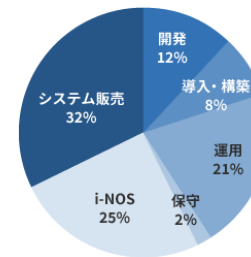


葛西サービスセンター

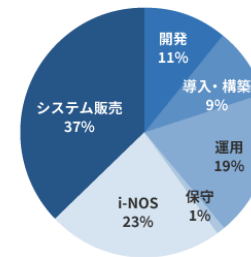
第41期売上構成



第42期売上構成

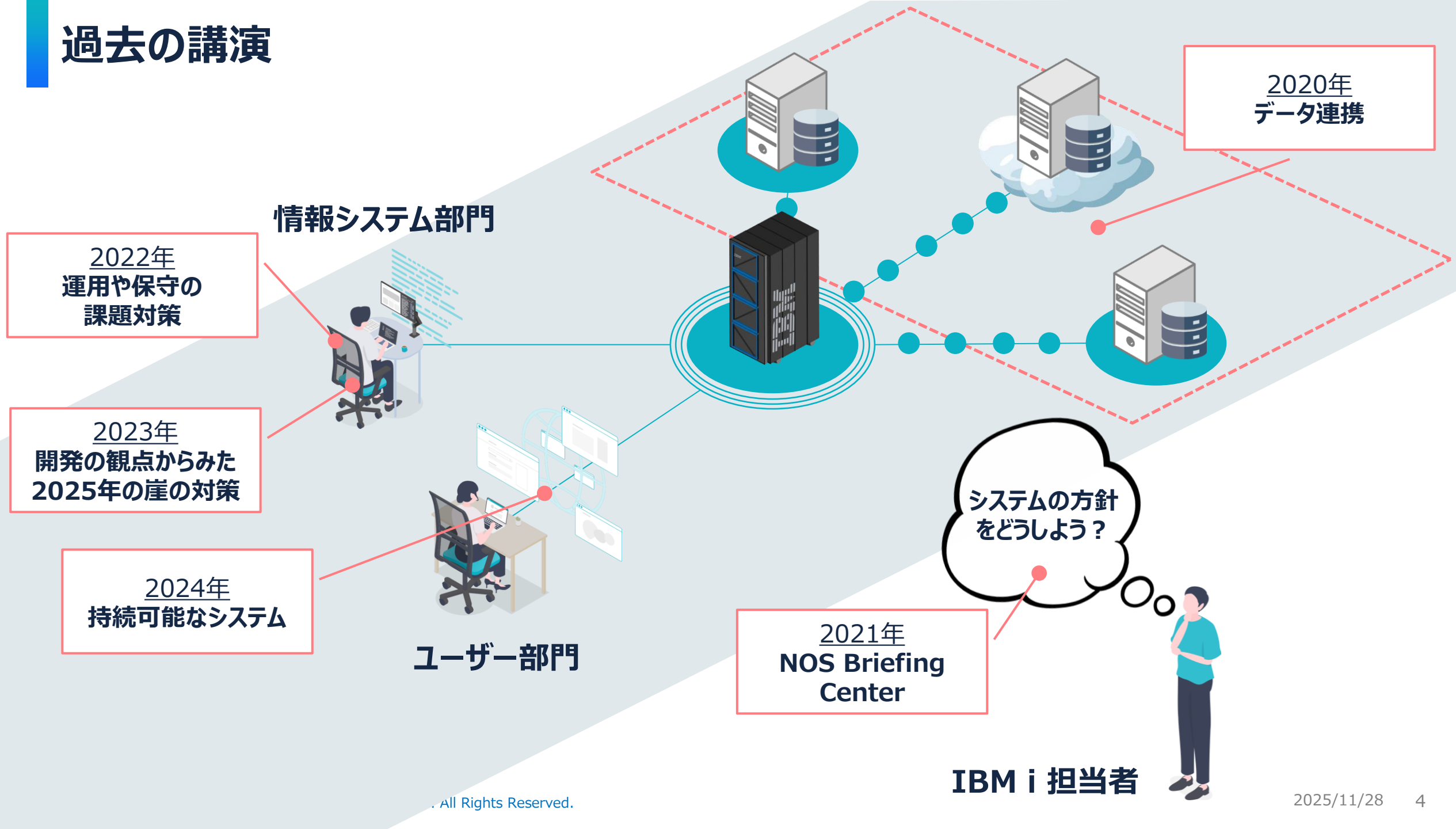


第43期売上構成



セグメント別売上高構成【2022年3月期～2024年3月期】

過去の講演



IBM i ユーザーのクラウドサービスに関する現状

IBM i クラウドサービスの利用状況

71.8%

利用中 : 34.2%

利用計画・予定 : 37.6%

出典：『IBM i ユーザー動向調査2024』（アイマガジン株式会社）

IBM Powerリプレイス時に クラウドサービスを選択肢に入れる割合

88.0%

2023年度 : 77.9%

2024年度 : 84.1%

2025年度 : 96.9%

出展：弊社2023年4月～2025年11月の実績

なぜクラウドサービスを検討するユーザーが増えたのか？

iC2をご利用頂いているお客様にiC2を採用した理由をお聞きしました

- システム専任者がいないので、運用をNOSに任せたい。（広告制作業）
- 担当者が高齢化の為、アプリケーション保守と併せてAS/400の運用もアウトソースしたい。（専門学校）
- オンプレミスと比較して5年トータル費用でiC2が安価であった。（医薬品卸業）
- 自社設置環境に不満（音、熱）、BCPも考えクラウドにしたい。（医療製造業）
- 3年後にシステム刷新予定の為、いつでも止められるクラウドを選択。（電線製造業）



IBM i クラウドサービスへ移行する際の 押さえておくべきポイント

NOSが提供しているIBM i クラウドサービスの紹介



HOKKAIDO Region



TOKYO Region



- ☁ 2011年より提供しているサービス
- ☁ 稼働実績100%の安定稼働とSLA99.99%
- ☁ 災害・障害対策、遠隔地バックアップも対応可能
- ☁ リソースを持て余しているユーザーにマッチ



IBM Power Virtual Server



- ☁ グローバルにリージョンを展開している
- ☁ PVSベースでお客様にも使いやすい独自運用
- ☁ IBM Cloudを含めたシステムのクラウド化
- ☁ 大規模なリソースを利用するユーザーにマッチ

よくあるご質問

Q1

自社から IBM i クラウドサービスへは、どのような接続方法がありますか？



- ・ インターネットを利用した拠点間 VPN による接続
- ・ ご利用中の通信キャリアが提供するクラウド接続サービスの利用
- ・ 自社拠点の一つとして組み込むプライベートネットワーク接続※1

※1弊社提供クラウドのみ

Q2

自分たちが契約するクラウドサービスのリソースは、どの程度必要になりますか？



現在のシステムで実際にどれだけリソースを使用しているかを調査し、そのデータに基づいて最適なクラウドリソースを見積もることが重要です。既存マシンのスペックをそのまま当てはめるのではなく、パフォーマンス測定及び分析で必要リソースの確認が必須です。

Q3

既存の IBM i で使用している IP アドレスは、クラウド移行後もそのまま利用できますか？



利用するクラウドサービスによりますが、多くの場合、クラウドは別拠点となるため、現行のIP アドレスをそのまま引き継ぐことはできず、原則新しいIP に変更が必要です。長期的には IP 直参照に依存せず、DNS による名前解決を徹底し、移行時や将来のスケーリングに伴う IP 変更の影響を最小化することをおすすめします。

Q4

日々のバックアップ方法は、クラウド移行によりどのように変わりますか？



物理テープの運用はなくなります。クラウドサービスにより、仮想テープ（VTL）方式または、オンラインでのデータバックアップ機能をご利用いただくこととなります。VTL方式の場合は、既存の運用を踏襲することが可能となります。

よくあるご質問

Q5

現在保有している IBM i のライセンスの所有権と SWMA は、クラウド移行後どうなりますか？



オンプレミスで保有している IBM i のライセンス（所有権）と SWMA は、そのままクラウド環境へ持ち込むことはできず、クラウド事業者が提供するライセンスを利用します。クラウドサービスの利用料にライセンスおよび保守が含まれて提供されるのが通常です。

Q6

契約する自社区画に最新の PTF を適用する場合の対応はどこが行いますか？



原則として、クラウドサービス提供事業者が対応します。ただし、クラウドサービスの種類によって、料金に含まれているかどうかは異なります。そのため、適用範囲やメンテナンスウィンドウ、稼働検証、ロールバック方針などを含め、事前に確認と合意することをおすすめします。

Q7

契約中の区画に提供される監視サービスの設定は、変更・カスタマイズできますか？



監視の内容や変更可能範囲はクラウドサービスによって異なります。事前の確認をお勧めします。ちなみに、iC2 の監視サービスはお客様単位でのカスタマイズに対応しております。

Q8

どのクラウドサービスを選べば良いですか？



リソースの使用状況や稼働しているアプリケーションの特徴、ご利用のネットワーク環境など、現在の IBM i の環境や利用状況によって最適なクラウドサービスが変わってきます。重要なことは、事前にパフォーマンスや利用状況の分析を行うことです。

クラウド移行のステップ

現状分析

- パフォーマンス分析
- 稼働しているミドルウェアの確認
- クライアント情報

移行計画

- ネットワークの接続方式の決定
- データ移行方式の決定
- バックアップ方式の確認と決定
- クライアントの設定変更の方法検討
- 切り替え時期

移行準備

- 回線の用意
- 環境構築
- クライアントの設定変更
- 期待通りのパフォーマンス出なかった際の対応（テストフェーズ）

本番移行

- データ移行
- 環境切り替え

本番稼働・運用

- 利用拡大に伴う必要リソースの見直し（パフォーマンス分析）

契約前までにしっかり詰める
必要がある

クラウドサービスへの移行検討におけるポイント



現行システムの事前分析

- 必要なリソースを算出するためのパフォーマンス分析
- アプリケーション利用状況や稼働状況



クラウドサービスへの接続方法（ネットワーク）の確認と準備

- 回線開通のリードタイムも考慮
- クラウドサービスにより、ネットワークの接続方法が変わる



クライアントの設定変更の対応有無

- IPアドレス直接指定の場合、事前に名前解決の環境へ変更
- PCだけではなく、プリンター側の設定も確認

CASE STUDY

NOS 日本オフィスシステム株式会社

AS/400をクラウド移行し安定稼働を10年間継続 BCP対策や運用負担軽減を実現

鳥居電業株式会社 導入ソリューション FineCrew クラウド・サービス iC2

TORII
Smart Automation!



オートメーション機器の技術商社である鳥居電業では、独自開発の基幹システムをIBM AS/400 (IBM i) 上で運用していたが、更新などの運用コストや担当者の属人化が課題となり、BCP対策も急がなければならなかった。これらの課題に対応するため、ITインフラを日本オフィス・システムの「FineCrewクラウド・サービス iC2」によってクラウド移行し、10年以上にわたり安定稼働を続けている。

東日本大震災を契機に システムの見直しが必要に

オートメーションの技術商社である鳥居電業は、FA分野の自動制御機器やシステムにとどまらず、ライフサイエンスやヘルスケア、分析などさまざまな分野において顧客に最適なソリューションを提供している。

2025年に創業100周年を迎える同社は、これまでに500社以上のメーカーとの協力体制を築いており、また、メーカー認定の資格を有する経験豊富な営業スタッフやSEスタッフを擁している。この基盤によって機種選定から検証作業、導入支援に至るまでのワンストップサービスを実現し、顧客の課題

解決・企業価値向上に貢献してきた。同社では、販売管理の基幹システムを1988年から稼働させており、サーバーはIBM System/36、その後はAS/400を採用してきた。ハードウェア、ソフトウェアともに完成度は高く安定稼働していたものの、更新コストの負担は小さくなく、当時の担当者の定年退職が進む中で属人化リスクも課題となっていた。

さらに2011年には東日本大震災が発生し、BCP対策の観点で販売管理システムを見直す機運が高まった。当時は東京本社の自社ビル内にサーバーを設置し、国内各地の営業拠点の専用端末からVPNでアクセスする構成となっていた。データは定期的なLTOでバック

TORII
Smart Automation!
鳥居電業株式会社
<https://www.torico.jp>

所在地: 東京都千代田区外神田2丁目10番9号
従業員数: 124名 (2024年2月時点)
事業: FA制御機器の販売及びシステムエンジニアリングの設計・制作

アップして別拠点に保管していたものの、万が一復旧作業の必要性が生じた際は、対応のスピードに不安が残っていた。もし本社が被災しサーバーやネットワーク機器が故障してしまえば、全国各地の顧客に対して製品やサービスを届けるのに支障を来してしまいかねない。

FineCrewクラウド・サービスiC2で 基幹システムをクラウド移行

そこで同社は、販売管理システムのクラウド化を検討。その過程を業務管理本部 情報システム課 課長の大山久氏は次のように振り返る。

「販売管理パッケージの採用も視野に入れましたが、当社は多種多様な商品や構成によって変化する型式などのため、商品マスタ登録を前提とするパッケージをそのままでは利用できず、カスタマイズしてまでパッケージに移行する利点が見いだせませんでした。そ



鳥居電業株式会社
業務管理本部 情報システム課 課長
大山 久 氏

たサポートの効果は人員の少ない当社にとって大きく、基幹システムの運用以外の業務に集中できるようになっています」(大山氏)

また、大山氏は運用コストの削減でも成果が出ていると話す。以前ならハードウェアやソフトウェアの料金、保守費用、電気料金、人件費などが必要だったが、これらの合計を年間換算で比較すると約3割のコストダウンを実現している。

さらなるシステムの進化に向けて NOSのサポートと提案力に期待

鳥居電業では現在、販売管理の基幹システムを導入して以来、初めての大幅な改修プロジェクトを進めているところだ。これはIBM Powerサーバーの安定性や現状のアプリケーションを生かしながら、主にユーザビリティ向上を目指す取り組みである。例えば、専用端末ではなく各ユーザーのパソコンからブラウザでアクセスできるようになり、機密出力に際しても電子化への対応を行うという。

「今回の改修もNOS様の協力を得て進めており、間もなく予定通りにリリースできる見込みです。オンプレミスで稼働している他のオープン系システムをクラウド化する構想も頭の中には描いています。さらに全社のシステムを成長させていくために、引き続きNOS様のきめ細かなフォローやソリューションの提案に期待しています」(大山氏)

課題/目的

- BCP対策
- 要員減少に伴う運用負担軽減
- サーバーの運用・更新コストの削減

効果

- 堅牢なデータセンターに設置してネットワーク構成の見直しによりBCP対策実現
- 属人化対策と負担軽減
(アプリケーション保守も併せて利用)
- 3割のコスト削減

IBM i クラウドサービスへ移行するからこそ



**IBM i クラウドサービスへ移行する際に
併せて対応しておくことで社内のイメージが劇的に変わります**

IBM i に対する印象

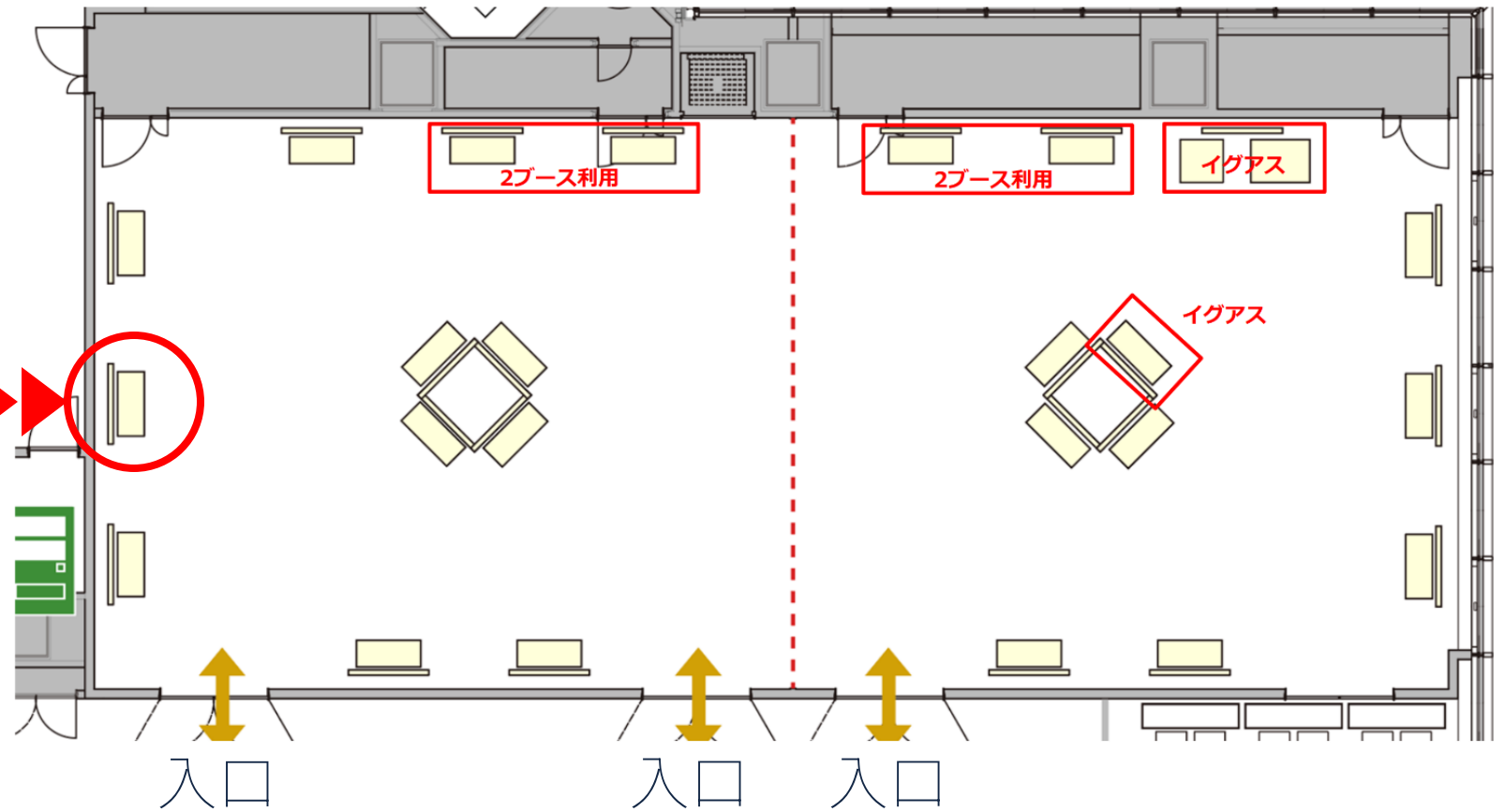
経営層やシステムを使うユーザーの印象

- レガシー、古いシステム
- 画面デザインが古い
- 画面がスクロールできない/マウスが使えない
- スマートデバイスで使えない/先進的な機能が使えない
- RPGができる要員が高齢化
- コードの桁数が足りない
- ブラックボックス化
- セキュリティが高い
- 自社の業務にあったシステム
- 長年の資産（プログラム）を受け継いでいける

NOSのブースにお越しく下さい！

日本オフィス・システム（NOS）
のブース

IBM i クラウドだけではなく、IBM i
の更なる活用のためのサービスの
ご紹介もしています！



第1会場

第2会場



お客様の
ベストパートナーを目指して

Fine Crew

日本オフィス・システム株式会社

お客様の声とともに進化を続ける
NOSオリジナルサービス

FineCrew®

お客様のニーズや、環境・戦略の変化に対応して、必要な機能をリアルタイムでシステムに追加する。そんな理想をカタチとするために2005年にスタートさせたのがNOSオリジナルのサービスブランド「FineCrew」です。（商標登録済）
お客様のITシステムを進化させるFineCrew＝優れた乗組員として、目標に向かって確実に航路を判断しながら前進し、お客様からの信頼を得られるよう努力していく精神で、NOSのアイデンティティそのものを目指したものです。

当内容に関するお問い合わせ先

日本オフィス・システム株式会社
ソリューション戦略室

松木 啓輔

TEL: 03-5250-6410

Mail: nosinfo@nos.co.jp